

平成 20 年
7 月 31 日

病害虫発生予報 8 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう
平成 20 年度農薬危害防止運動実施中です（6/15～9/14）

< 目次 >

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稲：いもち病(穂いもち), 斑点米カメムシ類	1
サツマイモ：りん翅目幼虫(ナカジロシタバ等)	2
ダイズ：りん翅目幼虫	2
ナシ：ナシヒメシンクイ, ハマキムシ類, ハダニ類	3
果樹共通：カメムシ類	4
抑制トマト：トマト黄化葉巻病	4

【その他の病害虫】	5
水稲, ダイズ, ナシ, ブドウ, カキ, クリ, 秋冬ネギ, 夏秋ナス	

. 病害虫ミニ情報

サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策	6
オオタバコガの薬剤感受性と防除対策について	7

. 今月の気象予報	9
-----------	---

. テレホンサービス	9
------------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 20 年 7 月 23 日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，葉いもちの発生量は平年並～やや多い。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は少ないと予想され，発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは，出穂後14日位までである。この期間に降雨が続く場合は発生に注意が必要である。

穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は，穂ばらみ末期～穂揃期である。上位葉に病斑が進展している水田では防除を徹底する。

水稻の生育はほぼ平年並であるが，高温により出穂が早まる場合もあるので，防除時期が遅れないように注意する。

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，水田周辺のイネ科雑草における発生量は平年並である。

水田周辺のイネ科雑草にカメムシ類の生息が認められる地点では，イネの出穂とともにこれらが水田に侵入すると予測される。一部水田ではカメムシ類の侵入が認められている。

気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，降水量は少ないと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

周辺よりも出穂の早い水田では，成虫の飛来が集中しやすい。また，出穂の遅い水田では，周辺の水田等で増殖した新成虫が侵入することがあるので，発生には十分注意する。陸稲においても，水稻と同様に発生に注意する。

斑点米カメムシ類の防除適期は，穂揃期（対象：飛来する成虫）と，出穂期から15日後頃（対象：幼虫）である。穂揃期に多数の成虫を確認した場合は防除を実施する。その後は幼虫の発生を確認した場合に防除を行う。

本年のクモヘリカメムシ幼虫の防除適期は，7月末～8月初めに出穂するコシヒカリでは，県南・県西地域は8月10日～15日頃，県北・鹿行地域は8月15～20日頃である。

成虫および若齢幼虫が主体の場合は残効の長い薬剤を用いる。防除の際には収穫前日数等の農薬使用基準に十分留意する。

水田において農薬を使用するときは、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項を確認するとともに、止水期間は1週間程度とすること。

サツマイモ

1. りん翅目幼虫（ナカジロシタバ等）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、被害葉率、地点率ともに平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

被害の大きいナカジロシタバの第3世代幼虫は、9月上旬頃から発生すると予想される。老齢幼虫になると防除効果が劣るので、幼虫発生初期（つる先や上位葉に指先ほどの穴が開いた食害痕が点々と認められる）の防除に努める。

薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までかかるよう丁寧に行う。

ダイズ

1. りん翅目幼虫

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、平年より多い発生である。

[防除上注意すべき事項]

老齢幼虫になると、薬剤が効きにくくなる為、圃場をよく見回り、若齢幼虫のうちに防除を行う。

薬剤散布の際は、葉裏や株元にも薬剤がかかるように丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、同一系統の薬剤は連用しない。

ナ シ

1. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、被害果は認めず、被害は平年並である。

7月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は、小美玉市、土浦市では平年並であるが、県予察ほ（笠間市）で多く、石岡市ではやや多い。

[防除上注意すべき事項]

防除を実施する場合は、8月上旬及び中旬に行う。収穫前日数に十分注意する。

薬剤散布量は、10a 当たり 300 リットルを目安にし、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

被害果を見つけた場合は、土中深く埋めるなど速やかに処分して、次世代による被害を防ぐ。

「幸水」で被害果が目立った場合は、「幸水」収穫終了後に「豊水」や「新高」等を対象に防除を行う。

2. ハマキムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、予察灯（かすみがうら市）への誘殺数は平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

徒長枝の葉を折り曲げて綴ったり、果実と葉が重なる部分を綴ったりする被害がないか注意する。枝が混み合っているところは特に注意して観察する。

上記のような被害が多いほ場では、8月中旬に防除を行う。収穫前日数に十分注意する。

3. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、平年並～やや多い発生である。

気象予報によると、向こう1ヶ月の日照時間は多く、降雨は少ないと予想され、発生に適した条件である。

(ナシ ハダニ類 続き)

[防除上注意すべき事項]

盛夏期は高温により増殖が抑制されるが、気温が下がり始めた頃に多発する場合がある。薬液がかかりにくい部分や、生け垣付近、道路に近く乾燥しやすい個所をよく観察する。発生を認めた場合は、防除を行う。

薬剤抵抗性ハダニ類の出現を避けるため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

カメムシ類およびシンクイムシ類を対象に合成ピレスロイド系剤を散布すると、ハダニ類やカイガラムシ類が増加する場合があるので、散布回数は最小限に抑える。

果樹共通

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い (新世代成虫)	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、被害果は認めず平年並である。

果樹園付近のヒノキでは、新世代成虫が発生しており、その発生量は平年並～やや多い。

果樹園に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

夜温が高いと活動が盛んになり、果樹園へ飛来するので、このような場合は発生に注意する。薬剤散布は、カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

抑制トマトのトマト黄化葉巻病

[現在の状況]

現地において5月及び6月定植トマトで発病株を確認している。

本病を媒介するタバココナジラミ類は、野外でも成育・繁殖しており、発生量の増加及びハウス内への飛び込みが懸念される。

ハウス以外にも露地にトマトが作付けされており、本病への感染及び新たな伝染源となる可能性がある。

[防除上注意すべき事項]

発病が認められた株は、感染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を枯らしてから処分する。

残さ置き場等で処理が不十分なため、自生しているトマトは新たな感染源になる可能性が高いので、早急に処分する。

タバココナジラミ類のハウス内への侵入を防止するため、ハウスの開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。なお設置によりハウス内温度の上昇が懸念されるので、遮光ネットや循環扇の設置等、暑熱対策も考慮する。

タバココナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

雑草はタバココナジラミ類の生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	紋枯病	発生量：やや少ない	7月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	ニカメイガ	発生量：平年並	近年，発生量は増加傾向にある。防除する場合は8月上旬～中旬に行う。
	イネツトムシ	発生量：やや多い	周辺に比べて田植えが遅い，あるいは多肥により葉色が濃い水田では，発生に注意する。幼虫が小さいうち（8/5～8/10頃）に薬剤防除を行う。
ダイズ	紫斑病	発生量： -	防除適期は開花期の20日後頃である。
ナシ	黒星病	発生量：やや多い～多い	7月下旬現在，果実での発生は，平年よりやや多い～多い。発病している果実及び葉は，見つけ次第取り除き，土中深く埋める。
ブドウ	褐斑病	発生量：平年並～やや多い	7月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	べと病	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
カキ	炭そ病	発生量：平年並	7月下旬現在，発生を認めず平年並である。
	カキノヘタムシガ	発生量：平年並	7月下旬現在，発生を認めず平年並である。7月下旬から8月上旬にかけて第2回成虫が発生するので，8月上中旬に次世代の若齢幼虫を防除する。
クリ	モモノゴマダラノメイガ	発生量：平年並	7月下旬現在，被害果率は平年並，予察灯への誘殺数は，平年並である。 「神峰」は，モモノゴマダラノメイガの被害が発生しやすいので特に注意する。
秋冬ネギ	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	7月下旬現在，夏ネギにおいて平年よりやや多い発生である。
夏秋ナス	ミカンキイロアザミウマ	発生量：多い	7月下旬現在，平年より多い発生である。

サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策

ナカジロシタバは、幼虫がサツマイモの葉を食害します。多発すると、短期間で葉脈・葉柄だけを残して葉を食べ尽くすので、サツマイモの収量・品質低下につながります。また、サツマイモの葉を食い尽くした後、餌を求めて移動する際に民家等に侵入して問題になることもあります。本虫は、老齢幼虫になると急激に被害が拡大しますので、初期の発生に注意して、早めに防除を行うことが重要です。

1. ナカジロシタバの発生生態

ナカジロシタバは年3回発生し、発生量は8月下旬以降に発生する第3世代幼虫が最も多くなります。成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。孵化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を好んで食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して葉脈・葉柄だけを残して暴食するようになります。成熟した幼虫は土中に潜ってマユを作り、その中で蛹になります。

2. 発生状況

本年は、7月下旬現在、平年よりやや多い発生となっています。本県における被害は、例年8月下旬から10月にかけて拡大します(図1)。特に、夏期の降水量が平年より少なく、気温が高い年は発生が多くなる傾向にあるので、今後の気象や幼虫の発生には十分注意してください。

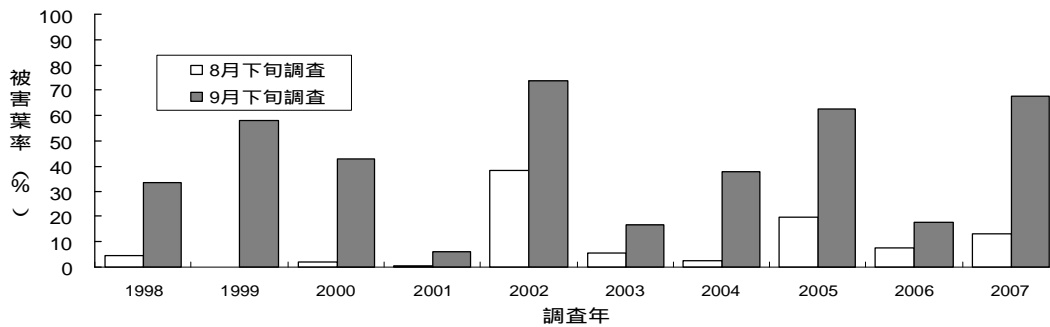


図1 過去10年間のナカジロシタバ被害葉率

3. 防除対策(平成19年度農業総合センター農業研究所主要成果(普及/情報)参照)

8月下旬～9月中旬に圃場での発生の様子をよく観察し、若齢～中齢の時期(丸く穴の開いた葉が散見される時期～葉面積の25%程度を食害された葉が目立つ時期)に、早めに薬剤散布を行います。その際、幼虫が生息する葉裏まで薬剤がかかるよう丁寧に散布してください。

薬剤に対する抵抗性は現在のところ認められていないので、表1に示す薬剤を適期に散布することで、十分な効果が得られます。なお、IGR剤(ノーモルト乳剤、マッチ乳剤)は、他系統薬剤に比べ殺虫効果の発現に時間がかかりますので、早めに散布するようにしてください。

表1 サツマイモのナカジロシタバに登録のある主な農薬(平成20年7月23日現在)

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 剤の使用回数	有効成分名 - 有効成分の総使用回数
オリオン水和剤40	1,000倍	前日 - 5回	アラニカルブ - 5回
ディブテレックス乳剤	700～1,000倍	14日 - 4回	DEP - 4回
トルネードフロアブル	2,000倍	7日 - 2回	インドキサカルブMP - 2回
トレボン乳剤	1,000倍	7日 - 3回	エトフェンプロックス - 3回
ノーモルト乳剤	1,000倍	7日 - 2回	テフルベンズロン - 2回
マッチ乳剤	2,000～3,000倍	14日 - 2回	ルフェヌロン - 2回
ラービンフロアブル	750～1,000倍	3日 - 3回	チオジカルブ - 3回

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用してください。また、周辺作物等へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意して散布してください。

オオタバコガの薬剤感受性と防除対策について

オオタバコガは、レタスなどの葉菜類、トマト、ナスなどの果菜類、キク、トルコギキョウ、バラなどの花き類など多くの作物を加害します。また、多くの薬剤に対して抵抗性を獲得しているため防除が難しい害虫です。そこで、主要な薬剤の殺虫効果を確認するため、昨年10～11月に県内のトマト、キャベツ、ナス、レタス等の圃場からオオタバコガの幼虫を採集し、薬液に浸したキャベツ葉を摂食させる方法により、薬剤に対する感受性を検定しました。その結果と防除上の留意点についてお知らせします。

【病害虫防除所が行った検定結果の概要】

- (1) ラービフロアブル、ファルコンフロアブル、エスマルク DF、アフーム乳剤、コテツフロアブル、スピノエース顆粒水和剤、トルネードフロアブル、プレオフロアブル、及びフェニックス顆粒水和剤は補正死虫率が90%以上となり、高い殺虫効果が認められました。特にアフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤、フェニックス顆粒水和剤は、採集した全ての地点において100%の補正死虫率が得られました。
- (2) オルトラン水和剤は補正死虫率が79～100%と地点により殺虫効果にばらつきがありました。

第1表 各種薬剤に対するオオタバコガ3齢幼虫の薬剤感受性

系統名	薬剤名	希釈 倍数	補正死虫率(%) ¹⁾²⁾					
			採集地点A	B	C	D	E	F
有機リン剤	オルトラン水和剤	1,000	100	97	79	90	97	83
カーバメート剤	ラービフロアブル	1,000	90	93	93	93	97	100
IGR 剤	ファルコンフロアブル	2,000	93	100	97	100	97	100
BT 剤	エスマルク DF	1,000	100	100	100	97	100	93
その他	アフーム乳剤	1,000	100	100	100	100	100	100
	コテツフロアブル	2,000	100	93	100	97	90	97
	スピノエース顆粒水和剤	2,500	100	100	100	100	100	100
	トルネードフロアブル	2,000	97	100	100	100	100	100
	プレオフロアブル	1,000	97	100	97	100	100	97
	フェニックス顆粒水和剤	2,000	100	100	100	100	100	100

1) 補正死虫率(%) = {(対照区生存虫率 - 処理区生存虫率) / (対照区生存虫率)} × 100

2) 処理3日後の補正死虫率を示した。ただし、IGR 剤及び BT 剤については処理7日後の補正死虫率を示した。

供試薬剤は、園芸作物でオオタバコガに平成20年7月23日現在登録があるものです。作物登録の有無及び使用方法は作物によって異なりますので、薬剤防除を行う際は作物ごとに必ず登録内容を確認してください。

【防除上の留意点】

- (1) 圃場をよく観察し、幼虫の早期発見に努めます。新しい食害痕や虫糞の周辺に幼虫がいる可能性が高いので、幼虫を見つけ次第捕殺します。
- (2) 果菜類や花き類では、被害果や摘芯・摘花した腋芽、花蕾などに卵や若齢幼虫がついているため、これらは株元に放置せず、圃場外へ持ち出し土中深く埋めるなど、適切に処分することが大切です。また、施設栽培では、開口部や出入り口を防虫ネットで被覆すると、成虫の侵入を防ぎ、高い防除効果があります。
- (3) 幼虫の齢期が進むほど、薬剤に対する感受性が低下します。また、中齢幼虫以降になると蕾、果実、結球内に食入するため、薬液がかかりにくくなります。食入前の若齢幼虫のうちに防除を徹底することが重要です。
- (4) 秋冬レタス、キャベツなどの露地野菜の定植期（8月下旬～9月中旬頃）は、オオタバコガの産卵時期と重なります。また、結球前の葉に産卵された場合、結球後に被害が大きくなります。そのため、結球始期前後の防除が特に重要であり、薬剤は発生状況に応じて葉裏や株元にもかかるよう丁寧に散布して下さい。（平成19年度農業総合センター主要成果「秋レタス栽培におけるオオタバコガの重要防除時期」参照）
- (5) オオタバコガは、多くの薬剤に対して抵抗性が発達しています。新たな抵抗性を発達させないため、薬剤を散布する場合は、系統の異なる薬剤をローテーション散布して下さい。
- (6) コナガコン-プラスは、オオタバコガに対する交信攪乱効果があり、成虫の発生前から栽培地域全体に設置（100～120本/10a）すると効果的です。ただし、十分な効果を得るためには一定以上の面積（目安として3ha以上）で使用することが必要となりますので注意して下さい。
- (7) コナガコン-プラスは、直接的な殺虫効果はなく、密度が高くなると効果が不十分になります。また、交尾済みの雌成虫が飛来した場合には、防除効果が得られません。そのため薬剤散布を併用することも大切です。

「オオタバコガの薬剤感受性と防除対策について」の第1表を参考に薬剤を選ぶ場合には、使用する薬剤の適用内容（作物名、希釈倍数、使用時期、使用回数等）をよく確認してから購入、使用して下さい。

平成20年度農薬危害防止運動実施中

農林水産省・厚生労働省・都道府県共催

農薬を使用するときは...

農薬ラベルを確認！

周辺への飛散に注意！

マスク、手袋、防除衣を着用！

農薬は鍵のかかる場所で保管しましょう！

・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 7月26日から8月25日)

気象庁(7月25日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	40	30	30
日照時間	関東甲信全域	30	30	40

[概要]

天気は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は高い確率50%です。

< 1週目の予報 > 7月26日(土曜日)から8月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

< 2週目の予報 > 8月2日(土曜日)から8月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

< 3週目から4週目の予報 > 8月9日(土曜日)から8月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号 : 029 (226) 5321

8月上旬 水稻病害虫の防除対策について

8月下旬 サツマイモ及びダイズ病害虫の防除対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。